

平成14年度長崎県総合水産試験場の事業について

長崎県総合水産試験場
企画開発推進室

平成14年度の総合水産試験場の事業について紹介します。

総合水産試験場は、長崎県水産業振興基本計画を技術面から支援するため、平成13年12月に策定しました。

総合水産試験場試験研究基本計画に基づき、資源管理型漁業の推進や養殖業の振興、水産加工業の育成強化等各分野にわたる試験研究課題に取り組んでいます。

各分野別の研究事業件数と事業費は次のとおりです。

(研究分野)	(件数)	(事業費 万円)
水産資源	5	2,734
漁場・環境保全	4	13,268
水産増養殖	17	13,541
(増殖)	(7)	
(増養殖)	(6)	
(養殖)	(4)	
水産加工	4	1,532
その他	4	1,802
合計	34	32,877

このなかで新規事業と主な事業を紹介します。

(事業費 万円)

1 「開かれた総合水試」高度情報化事業(新規)

385

各種情報サービスの実施に加え、「移動総合水産試験場」の実施等を通じて、研究成果の効果的普及やニーズの的確な把握を行います。

2 海洋構造変動パターン解析技術開発事業(新規)

300

当試験場の調査船により水深別流向流速データを収集し、衛星データ、水温データ等の関連データと総合することにより、本県近海の海洋構造を迅速かつ的確に把握するための技術開発を行います。

3 新魚種種苗生産技術開発事業(新規)

1,600

現在種苗生産技術を開発中の魚種(マハタ、アカアマダイ)に残された課題を解決するとともに、新たに新魚種(メバル、クエ)を取り上げ、種苗生産魚種の多様化を図ります。

4 諫早湾貝類資源回復技術開発研究(新規)

1,000

激減しているタイラギやサルボウ資源などの回復へ向けた技術的検討を行うとともに、地先で地撒き放流によって生産されているアサリの安定生産に向けた技術開発を行います。

5 低・未利用水産資源利用技術開発事業(新規)

370

現在利用率の低い、または未利用の魚種(アイゴ、イスズミ、ハガツオ、ゴマサバ、コシナガ、ヨロイイタチウオ等)について、栄養成分や加工原料特性、至適加工法の把握などを行い、加工による資源の有効活用を図ります。

6 干潟活用環境改善方策調査研究事業

12,000

干潟の環境特性を活用するため、国、大学と連携し、アサリ等底生生物の浄化能力についてフィールド調査や室内実験を行います。また、実験覆砂漁場の造成による海域の環境改善等の実証試験を行います。

7 魚介類健康管理技術開発(新規)

830

増養殖全体の安定生産のため、予防対策の技術を含めて、養殖の生産基盤である種苗生産、養殖における魚介類の魚病対策の技術開発を行います。

以上、主な事業を紹介しましたが、総合水産試験場は今後とも、漁業者や水産加工業者など水産業に関係する方々のニーズに即した試験研究を実施してまいりますので、ご意見、ご要望がありましたら最寄りの水産業普及指導センターか、直接、総合水産試験場までご連絡いただきますようお願いいたします。